

ASEANの製造・販売拠点

マークテック・タイランド

新工場探訪

ASEAN諸国における日本企業進出数ではトップであるタイ。アジア全体でもタイの各工業団地における日系企業数は中国・上海に次いで多く、まさにネクストチャイナとしてアジア地域における製造拠点イコール新たな世界工場となりつつある。そのタイの地で非破壊検査用品、機器の販売およびアフターサービスなどの事業を展開しているマークテック・タイランド。2005年10月に設立。2012年3月23日にチャチュンサオ県ゲートウェイ工業団地内に新工場を竣工。製品の現地生産を開始した。年も押し迫った11月末に新工場を訪ね、タイにおける同社の事業展開等についてレポートする。

同社では、タイにおいて、これらの機材の安定供給としては、表面欠陥(クラック)と、さらに顧客サポート、浸透探傷、磁粉探傷、渦

流探傷試験機材、トレーマッキング、レーザーマーキング、刻印機を販売。さらに、非破壊検査機材、取り扱い製品の特徴と

内面欠陥検査シースも対応

体制の構築を目指している。今回、新工場でも現地生産を開始したことにより



新工場



A棟



B棟

マークテック機材の総合メーカーとして顧客の様々なニーズに対応するため、他社と協業し超音波探傷器(菱電湘南エレクトロニクス)との協業やX線検査装置(エクスロン・インターナショナル)との協業)の販売とサービスも行っており、内面欠陥検査ニーズにも対応している。

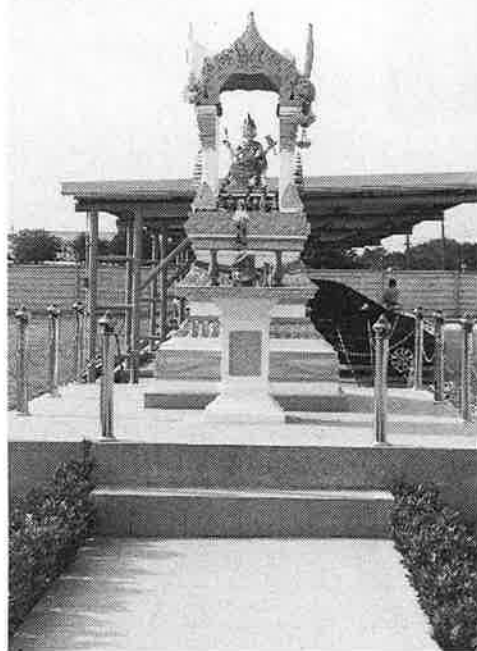
一方、技術サービスとしては、工場内のデモルームに各種デモ機を配備し、実際にユーザーが工場へ来て、新規製品の探傷テスト、マークテックの教育に活用できるような体制を整えている。さらには機械装置販売の技術サービス、アフターサービスのひとつとしてデモ機の貸出しも行っている。

同社設立にあたりタイでの事業展開を決定したのは、タイがASEANの中心に位置し、将来的にはFTAを活かしたASEAN地域への輸出、売り上げ拡大が見込めるため。市場の魅力としてもここタイでは自動車産業が盛んであり、日系の自動車メーカー、自動車部品メーカーもそのほとんどがタイへ進出していることから、同社としてはタイ市場で日本国内における親会社の実績を活かし、タイでも同様の製造、サービスの提供を図ってきている。

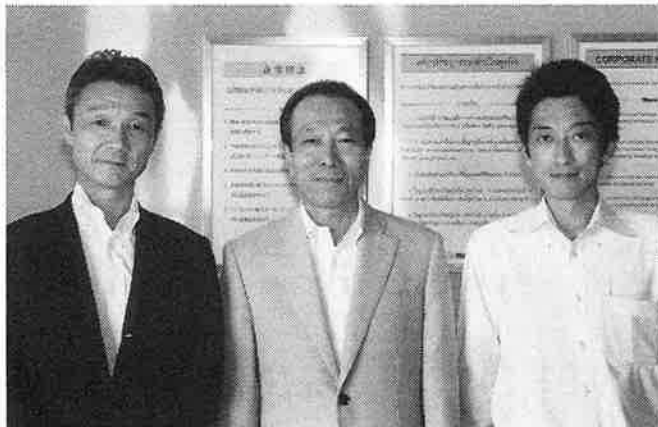
また、ここゲートウェイ工業団地は、タイ国内各地に分布している工業団地からみてちょうど中心に近い位置にあるため、デリバリーの面などでも良好な土地であり、地の利は大きい。同社では今回の新工場により、将来的にタイ国内のみならずASEAN地域をカバーするマークテック製品の製造・販売拠点とすることをターゲットとしており、ユーザーに対し、ヒューマンエラーの防止、品質、サイクルタイムの向上を目的に検査の自動化を提案。タイでも全自動磁粉探傷装置、エコマグナの販売を開始するとともに、今後もユーザーの品質向上に繋がる技術サービスの提案と製品の安定供給に努めるとしている。(本紙ASEAN取材班)



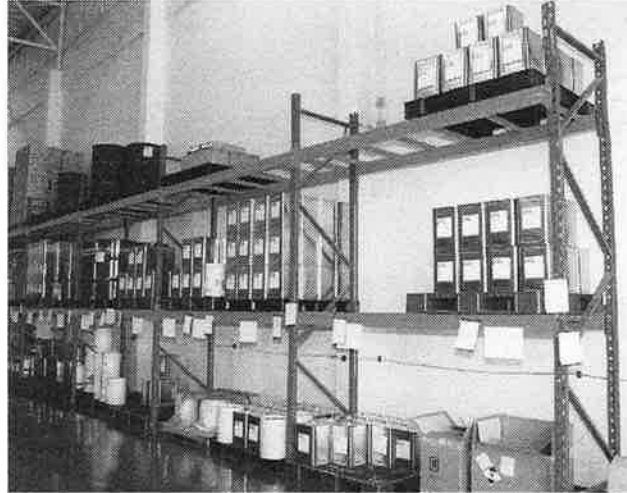
C棟



工場内にある精霊祠



松川英文マークテック社長を挟んで、成澤泰浩マークテック・タイランド社長(左)と松永覚同社ゼネラルマネージャー(右)



PT製品のストックヤード